

団体名 特定非営利活動法人 サービスグラント

令和6年度孤独・孤立対策担い手育成支援事業交付金 事業実施報告書

【事業内容】

1. 事業実施の概要		
(1) 実施概要と実施体制		
以下の団体を支援先として、支援者（メンター）によるメンタリングを実施した。 支援先団体：孤立・孤独対策の担い手の団体を支援 支援者（メンター）：子育て中の女性が支援 団体の業務での困りごとや悩みをメンターが聴きながら課題を整理し、活動を支援することで、団体スタッフのモチベーションの維持・向上や組織課題の解決につなげ、団体の安定的・継続的な推進体制の構築を支援した。		
支援先団体		
孤立・孤独対策の担い手の団体を対象とし、10 団体 18 名（一部グループメンタリングで実施したため、15 組対応）のNPO等（活動区域としては、6 都道府県）の代表やスタッフに対しメンタリングを行った。		
団体名	所在地	参加人数
認定NPO法人居場所サポートクラブロベ	茨城県つくば市	1
一般社団法人 We are Buddies	東京都渋谷区	2
NPO法人FC岸和田	大阪府岸和田市	1
NPO法人グリーンウッド自然体験教育センター	長野県下伊那郡	2
NPO法人サンカクシャ	東京都豊島区	4
KTRUCK	広島県尾道市	1
認定NPO法人まなびと	兵庫県神戸市	1
南正雀まるっと。	大阪府吹田市	1
NPO法人両育わーど	東京都渋谷区	1
せせらぎファンイン冒険遊び場	東京都渋谷区	4

1. 事業実施の概要（続き）

支援者（メンター）

子育て中の女性 30 名が 2 人 1 組のメンターとなり、メンタリングを行った。「聴く」ことで支援ができるという入口から、参加のハードルは下げながらも、傾聴力だけでなく、様々な仕事の経験を活かした活躍をいただいた。話を聴くだけでなく、悩みや課題の整理、自身の経験からのアドバイスなどを通して寄り添うことを重視した。

(2) 体制整備による運営基盤強化

本プログラム発展に向けた運営体制整備として、

- ① 研修やサポーターによる伴走を通じたメンター育成体制の確立
- ② オンラインシステム改修による運営体制の整備
- ③ 個人の悩みにとどまらず、団体の運営課題解決の体制構築支援を行った。

これにより、今後、行政や企業と連携しさらなる NPO への支援につなげる基盤を強化した。

① メンター育成体制の確立

事前研修：

以下のような事前研修、実践練習をメンター参加決定者に行うことで、メンター育成体制の確立を行った。

- ・事前研修：有識者による研修を実施し、メンターの経験がなくても参加ができるよう、メンタリングに関する基本スキルなどへの理解を深め、メンタリングセッションの体験も行った。
- ・実践練習：サポーターの同席のもと、メンター同士で実践練習を行い、安心してメンタリングプログラムを開始できる体制を整えた。
- ・動画視聴：それまで NPO に接点がなかった人でも、ビジネスとは異なる環境での活動について視野を広げたうえで、NPO メンタリングプログラムへの心構えを持ってもらえるよう、NPO 理解のための研修動画を提供した。

1. 事業実施の概要（続き）

サポーター制度：

メンタリングプログラム経験者が各メンターペアを「サポーター」として伴走することで、初めてでもメンターとして参加しやすくかつ今まで以上にメンタリング対象団体を増やせる体制を整えた。実践練習でのフィードバックとともに、メンタリング中は各メンタリングが順調に進んでいるかを伴走しながら、メンタリングを進める上で困ったことやアドバイスを欲しいというリクエストに対応した。

② 運営体制（運営システム）の整備

弊団体が運営するマッチングプラットフォーム「GRANT」を活用。継続的な実施、および拡大に向けて、丁寧でありながら負荷を軽減した運営ができるよう、GRANT上にメンタリングプログラムの運営のためのシステム改修を行った。

各メンタリングの実施予定や実施結果はメンターが「GRANT」上で更新し、スタッフがGRANT上で確認、必要に応じてサポートを行った。情報が一元管理され、進捗状況が見やすくなるとともに、参加者も次のアクションが明確になった。また、セッション毎にセルフチェックをメンター・支援先団体ともに回答をしてもらうことで事務局として状況把握ができるようになった。結果、効率的な運用が可能となり、過去2年間の各年度5名前後の支援から、本年度は自主事業として支援をした3団体5名を加え、合計13団体23名への同時運営が可能となった。

③ 団体の運営課題解決の体制構築支援

同一団体内から複数名のスタッフが参加した団体（2団体）については、実施報告やアンケートからメンタリングの成果のフィードバックレポートを提出した。

また、メンタリングを通じて確認できた団体の課題については、プロボノ募集プラットフォーム「GRANT（<https://grant.community/>）」の活用（業務フロー整理など）を通して、課題解決に向けたアクションに進むことを推奨した。（3団体は既に登録作業を行っている）

2. 具体的な取組内容

(1) 参加者募集・実施準備

支援先団体募集

本事業対象となるサービスグラントの登録団体や関連団体に向けてご案内メールを送付、説明会、および個別相談を実施。本プログラムの内容、本人および団体へのメリットなどをご説明し、参加団体、参加者を募集した（サービスグラント登録団体 379 団体へ一斉メールで案内/加えて、28 団体に個別声がけ）。

その結果、多くの申込をいただき、事前に設定した締切前に、募集を締め切った。

支援先団体向けオリエンテーション実施

参加者決定後、プログラム理解を深めていただくためのオリエンテーション及びメンタリングのテーマとなる課題のヒアリングを実施した（10 団体）。

メンター募集

ママボノ^(※)経験者宛のメール・Facebook グループ、ママボノ Facebook・Instagram でご案内し、本プログラムの紹介を行う参加者募集イベント「聴く力を活かした社会貢献のポイント」を 1 回開催、参加者を募集。イベント申込者は 86 名。

メンターの申込も、事前に設定した締切前に定員を満たし、メンターとして孤立・孤独対策の担い手の団体への支援を行うことへの関心が伺えた。

（※ママボノ＝産育休中や、結婚子育て等で離職をしたママによるプロボノ。2013 年度よりサービスグラントが実施、2022 年より復職者も参加ができるママボノ NEXT もスタート。2023 年度までで、延べ 824 名のママが参加、124 団体を支援。）

メンター対象事前研修等（メンター育成体制の確立）

1-(2)-①参照

2. 具体的な取組内容（続き）

(2) メンタリング（3か月間）実施と事後対応

① メンタリング実施

実施期間：2024年11月～2025年2月（2月は振り返りセッション）

実施方法：月2回、40分程度、主にオンライン（Zoom）で実施。

実施内容：

キックオフミーティング：初回を「キックオフミーティング」として、メンター、支援先団体の顔合わせ、流れの確認、当該メンタリングのテーマへの理解を深める場とした。

2回目以降のセッション：業務上の課題やマネジメント、自身の強みや今後のキャリアなどをテーマに行った。（標準実施回数6回）

支援先理解：地理的に可能なメンタリンググループは対面メンタリングやNPOの活動場所訪問なども行った。

振り返りセッション：全セッション終了後、メンタリングチーム（メンター2名、支援先団体1名）ごとに、支援先団体だけでなく支援者（メンター）側の学びも振り返る場を持った。

運営方法・運営上の工夫：

- ・「GRANT」の活用：実施予定日を決定したら、運営システムとして活用する「GRANT」上に登録。実施後にも「GRANT」上報告を行い、セルフチェックとして実施状況を報告してもらうようにした。

また、今後の拡大に向けて、運営体制（運営システム）の整備を行った。1-(2)-②参照

- ・Slackの設定：メンター同士で情報交換を行えるようにSlackのワークプレイスを用意し、常時、工夫の共有や相談ができる場を提供した。

- ・シェア会（中間共有会）の実施：メンターに対して、11月と12月にシェア会（中間共有会）を行い、他のメンターペアの状況や工夫の共有、困りごとの相談などが行える場を設定した。

- ・中間アンケートの実施：中間地点で、メンター及びNPOに対してアンケートを実施し、メンタリングに対する満足度や課題について確認をした。

2. 具体的な取組内容（続き）

- ・ **メンター振り返り会の実施**：本プログラム参加がメンターにとっても有意義な経験となったことを確認する場として、メンターのみ集まってのメンター向け振り返り会を行い、活動からの学びについて振り返り、共有を行った。

② メンター、NPO向けアンケート実施

インパクト評価を行うインパクトサークル株式会社からのトライアルの提案を本事業開始後に受け、下記のNPOに対するメンタリングの効果に関するインパクト評価を実施した。

- ・ 本事業でのメンタリングNPO（10団体15名）
- ・ 2022年度と2023年度にメンタリングプログラムに参加したNPO（対象者9名、回答者6名）

インパクト評価に向けて項目の検討と調査を実施、その分析を行った。加えて、下記1団体ずつインタビューを実施した。

本事業参加NPO：メンタリング開始前と終了後に組織や個人の課題や状況に関するアンケートを実施。プログラムの成果について評価を行った。加えて、終了後についてはプログラムに対するアンケートを実施した。

過去参加NPO：メンタリングのその後の成果についての評価を行った。

メンターについては、メンタリング終了後、本プログラムへの参加を振り返るアンケートを実施し、メンターへの効果と運営に関するフィードバックを得た（30名）。

複数名が支援先として参加をした団体に対しては、組織へのフィードバック（団体の運営課題解決の体制構築支援）を行った。1-(2)-③参照

③ 総括イベントの実施

総括イベント「支援者を支えるメンタリングの力～孤独・孤立に向き合う支援者のための対話～」を、3月6日（木）にオンラインで開催した。

本イベントを振り返り、経験者の体験談を聞き、孤独孤立支援につながるメンタリングの意義、成果、可能性を改めて言語化する場となった。

2. 具体的な取組内容（続き）

主目的：来期以降、本プログラムを行政と連携して行うことを目指す
広報：

- ・ 行政関係者向けのダイレクトメールをイシン株式会社の自治体通信メール版を通じて、25,261 件配信
- ・ 各行政の孤立孤独担当部署宛にチラシを郵送（49 カ所）
- ・ 今後の支援先団体やメンター募集に繋げるために、Peatix や SNS（サービスグラント Facebook、ママボノ Facebook、ママボノ Instagram）、サービスグラントメールマガジンを通じた広告や情報発信

■ 申込者 124 名、

行政関連機関：25 人

企業担当者：3 人

NPO 法人・市民活動団体：20 人

マスコミ・報道機関：1 人

教育・研究機関：4 人

人事・人材育成・ダイバーシティ推進のご担当者：6 人

ワーキングマザー：15 人

プロボノ経験者：18 人

一般個人：25 人

その他：7 人

（録画視聴申込みも含むため、124 名全員に後日録画を共有することで、全申込者にイベント内容をご案内した。）

イベント参加者向けアンケートから関心者を確認し、行政・企業、団体、一般（メンター関心者）に向けて、今後のご案内につなげる。

特に行政については3機関にコンタクト済み、今後のメンタリングプログラム実施に向けてご案内、具体的な提案等行う予定。

3. 事業の目標に関する客観的な指標の達成状況及びその評価

(1) 2024 年度事業目標

- ① NPO 5 団体に対し合計 15 名へのメンタリング支援を実施。30 名のメンターが参加。
- ② NPOメンタリングプログラムの運営システムの構築を完了。
- ③ 参加したNPO代表・スタッフ 15 名の内 8 割以上が、業務に対して前向きにとらえられるようになっている。
- ④ その結果、150 名の受益者に対して、孤立孤独の防止に対するポジティブな影響をもたらすことができる（各団体平均 30 名の受益者に対応すると試算）

(2) 達成状況（アンケート結果）

- ① NPO 10 団体に対し合計 18 名（個人 14 名＋グループ 1 組 4 名）へのメンタリング支援を実施。30 名のメンターが参加した。
- ② マッチングプラットフォーム「GRANT」を活用し、NPOメンタリングプログラムの運営システムの構築を完了した。
- ③ 参加したNPO代表・スタッフ 18 名の内、アンケート回答者 17 名中 100%が「参加してよかった」と回答。82%が本プログラム参加後に具体的なアクションを起こすなど、業務に対して前向きにとらえられるようになった。
- ④ その結果、回答者の 92%がNPOの活動にポジティブな影響を与えると回答し、団体の発展を通して 4,892 名^(※)の受益者に対して、孤立孤独の防止に対するポジティブな影響をもたらすことができると回答している。

※受益者数については、参加 10 団体のうち 8 団体（13 名）が回答し、その合算。